
【特集】新日本窒素の労使関係・労働運動の諸相（1）

特集にあたって

本特集は、チッソ労働運動史研究会（主催：熊本学園大学水俣学研究センター）のメンバーの成果を報告することを目的とする。チッソ労働運動史研究会は、2006年に立ち上がり、新日本窒素労組の旧蔵資料整理、元組合員の聞き取り、および新日窒労組資料のアーカイブズリサーチ等の研究活動を行ってきた。本特集の論文は、新日本窒素（1965年よりチッソ株式会社）の企業経営、労使関係、労働運動の諸相を、研究会メンバーのそれぞれの関心領域から検討する。同社の労使関係は1953年の身分撤廃闘争を経て、1962～63年にかけての大争議（安定賃金反対闘争）および組合分裂を経験した。安賃闘争後は、第一組合である新日本窒素労組の組合員は、経営側の抑圧的政策にさらされ、当時進行していた経営合理化政策のターゲットとなった。チッソに関しては、水俣病問題の視点からの研究がある程度行われてきたものの、労使関係・労働運動の視点からの研究はあまりされてこなかった。本特集は、そのような研究のギャップを埋めることを目的とする。なお、本特集で掲載される論文の一部は、2014年春の社会政策学会第128回大会の労働組合部会で報告された論文を加筆・修正したものである。

本特集を組むにあたっては、聞き取りに応じて頂いた新日窒労組元組合員の方々、熊本学園大学水俣学研究センターのスタッフの方々に大変お世話になった。この場を借りてお礼を申し上げる。

（鈴木 玲）